

広報みしま

町のすがた

(9月1日現在)

人口 男 3,306人 (-5)
 女 3,564人 (-3)
 計 6,870人 (-8)
 世帯数 1,719 (+1)
 ()は8月1日との比較



第 282 号

平成 3 年 9 月 18 日
 発行 新潟県三島郡三島町役場
 ☎ (0258) (代) 42-2221
 印刷 長岡市 あかつき印刷



「とにかくじっとしていることが嫌い」 という小林テイさんは明治36年4月生まれの88歳

小林さんは耳が少しとおいほかは、いたって丈夫。風邪をひくことも無いのは、家族でもびっくりするほどのことです。

散歩が大好きで、食事の時と雨の日以外はほとんど外に出ているくらい。あまり遠くに行くとあぶないからと家族が注意すると、逆に怒られる始末。

「小学校の頃、ひいばあちゃんに教えてもらった漢字をテストで書いたら、先生から『昔の字だ』と言われ間違いにされた」と、ひ孫の裕美さんと洋之さん。



「米寿の祝いの品は全部自分で決めた」 と語る山田確則さんは、明治36年7月1日生まれ。

山田さんは今でも東京、京都へ一人で行ってこれるといふ元気者。40代のころから書画を習い始め、時々展覧会へも足を運びます。健康の秘けつは「自由気ままに生きて、あまりくよくよしないこと」と言い、52歳で胃かいようを患ってからは酒、タバコをきっぱりやめたそうです。

「58年に孫夫婦が東京から帰ってきた時は、本当に嬉しかった。ひ孫を祭りに連れていったら大喜びしてくれた」



「毎日風呂に入るのが一番の楽しみ」 という片野ヤマさんは、この11月に88歳となります。

片野さんは規則正しい生活を心がけ、腹八分目。好き嫌いなく、何でも食べます。家人に対し、朝は「おはよう」、勤めに出るときは「ご苦労さん」、帰ってきたときには「お帰り、ご苦労さんでした」と声を掛け、庭の草取り、水くれを日課としています。

「今までの長い人生を、母が健康で働いてくれたことを喜んでおります。これからも自分なりに一日一日を有意義に暮らされることを願っています」と息子の増雄さん。

秋の七草をご存じですか。指を折って、数えてみてください。万葉集の歌人、山上憶良が、「秋の野に 咲きたる花をおよび折りかきかぞふれば 七種の花」として挙げたのは、萩尾花(ススキ)、葛、ナデシコ、オミナエシ、フジバカマ、朝顔(キキョウ)の七種類。なかでも、ススキは秋の風物詩です。ススキの穂が風にそよぎ始めると、暑さから開放されるほっとした気分になります。ススキは、昔から日本人の暮らしにとって、身近な植物でした。屋根葺きの材料として、また、肥料や家畜の飼料、炭俵やすだれの材料として、なくてはならないものです。いまでは、観光名所のススキ草原、土産のみみずくなどでススキに親しむことが多くなりました。



“県民に開かれた県政”を目指している金子知事が三島町で「ふれあいトーク」を行います。

「ふれあいトーク」は、知事が実際にその地域に出かけていき、皆さんと直接対話を行うもので、皆さんの声を県政に反映し、併せて県政をより身近に感じてもらうことを目的としています。

会場への入場、知事への質問や提言などは自由です。参加を希望される方は、9月24日(火)までに役場企画調整課(☎42-2221内線322)へご連絡ください。

知事に

質問してみませんか?

知事への発言は、どなたでも自由にできます。当日発言を希望される方は、発言の要旨を参加申込時にお知らせくださるようお願いいたします。

■日 時 10月29日(火)
 午後1時30分～3時30分

■場 所 三島町体育館

■参加範囲 三島町、与板町、寺泊町、和島村、出雲崎町、見附市、中之島町にお住まいの方。

■問い合わせ先

○役場企画調整課(☎42-2221内線322)

○新潟県総務部知事公室広報広聴課広聴係(☎025-285-5511)



知事

10月29日

金子知事と語りましょう

三島町体育館で

「ふれあいトーク」開催

お詫び

広報みしま八月号表紙掲載の稲垣祐也さんは、稲垣裕也さんの誤りでした。お詫びし、訂正させていただきます。

今月の納税

*固定資産税	三期分
*国民健康保険料	九月分
*国民年金保険料	九月分
*水道使用料	九月分
*ガス料金	九月分

短歌

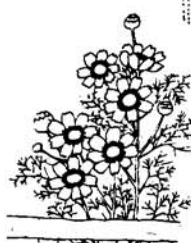
クラス会、又相見むと誓ひしに
 語りし友の天にぞ召さるる

標識を覆いて夏草ほしいまま
 地下足袋に土の湿りや茄子の花
 竹落葉刺るところに流人跡
 用はみな葉書ですます白餅
 目隠しの太刀は上段西瓜割り
 帰省者ではちきれそうなホームかな
 夕焼けの沈む早さと老りにけり
 鯛や父の年忌のすら老いて
 鯛に夕餉の味覚戻りけり
 鬼瓦おっかぶさって入道雲
 街角やビルに重なる雲の峯
 土地なまりほど良く馴染み避暑の客
 山坊に籠る行者や雲の峰
 補虫網たずさえ少年肩まろし

田口俊夫
 桜井早子
 尾竹花翠
 原戸游津
 木林守門
 小村南風
 安達遊雲
 中村松子
 小林老松
 結城清一
 名塚一
 遠藤枯骨
 大滝著風
 棚橋比呂志
 難波千代女

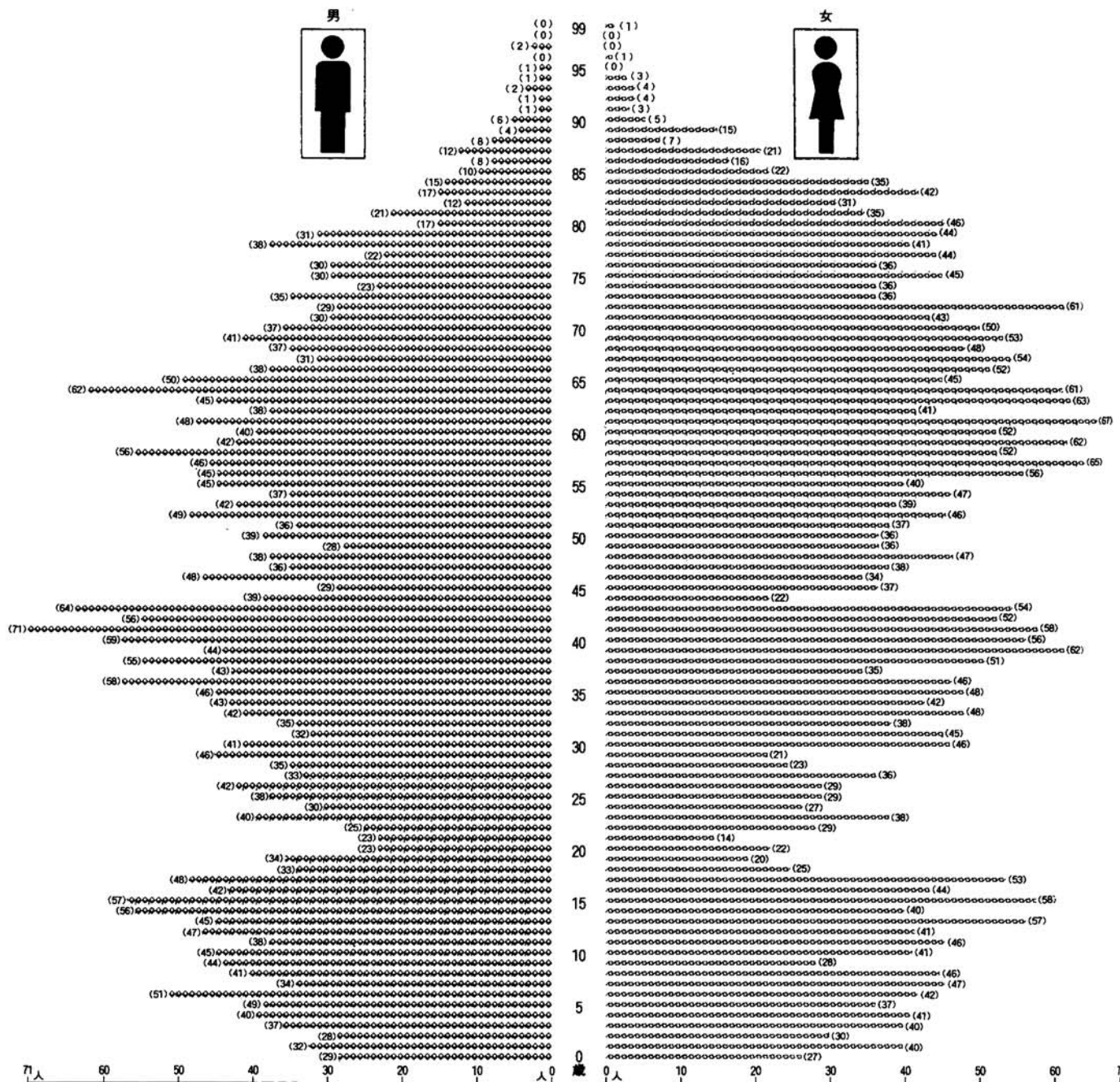
俳句

文芸



あなたの年齢には何人？

国勢調査確定数公表



昨年十月一日現在で行われた国勢調査の確定数が公表されました。

これによると、三島町の総人口は速報どおり七、〇九一人(男三、三八二人、女三、七〇九人)となりました。

上の図は、人口の年齢構成などを見る場合に使用される「人口ピラミッド」と呼ばれるもの。若年層が多くなると、この形は「富士山型」となり、高齢人口が多くなると「ツボ型」となりますが、三島町の場合、二十歳と四十五歳前後に大きなピークがある「つりがね型」といったところ。

全人口に占める六十五歳以上人口の割合は、二二・八％、前回六〇年調査に比べ三・七％増加。十五歳未満の年少人口の割合は一七・二％で、五年前と比べ、一・九％減少し、高齢化と少産化が進んでいることを裏付けています。

なお、平均年齢は全体で四三・六歳。性別では男性四一・四歳、女性四五・六歳となりました。

第3回臨時会 議会人事決まる



常任委員会の講成

委員会名	委員長	副委員長	委員
総務文教	松村 清吉	齋藤富士男	齋藤 清明・山田 弘 谷川輔三郎・大桃 健三
社会厚生	片桐 桂司	小林 正男	青柳 一男・野島 六司 河内 榮司・中村 康平
建設産業	中野 昭二	佐藤 甚太	棚橋 茂・齋藤 敏夫 小林太左衛門・中川一男



小林議長



谷川副議長

議会運営委員会

委員長	副委員長	委員
谷川輔三郎	松村 清吉	中野 昭二・片桐 桂司

議会広報対策特別委員会

委員長	副委員長	委員
齋藤富士男	山田 弘	棚橋 茂・小林 正男 齋藤 敏夫

一部事務組合関係議会議員

議会名	議員
与板町外2ヶ町村 水道企業団	青柳 一男・齋藤富士男 齋藤 敏夫・河内 榮司
三島郡・与板町 ガス企業団	齋藤 清明・棚橋 茂・小林 正男 佐藤 甚太・小林太左衛門
与板郷消防斎場 事務組合	野島 六司・山田 弘 谷川輔三郎
長岡地区衛生処理 組合	小林太左衛門 谷川輔三郎

(敬称略)

八月に行われた町議会議員の改選後初の町議会「第三回臨時会」が、九月三日召集され一日間会期が開かれました。

この臨時議会では、議長、副議長、各常任委員会の委員など一連の議会人事と、町監査委員の選任案件などの審議が行われました。

議長は小林太左衛門氏(再任)
副議長には谷川輔三郎氏

議長には、小林太左衛門氏(上岩井)が再任され、副議長には谷川輔三郎氏(鳥越)が選ばれました。

また、常任委員会と議会運営委員会、及び継続して設置された議会広報対策特別委員会の構成員について、別掲のとおり決定しました。

なお、これら議会人事の後、監査委員人事の審議に移り、新しく河内榮司氏(脇野町)が選任されました。(※法律により、監査委員については定数二名のうち一名を、議会議員より選出します)



厚地副知事に謝辞を述べる青柳団長

**勤続三十年
青柳消防団長知事表彰**
 中川副専任部長は功績表彰
 八月十一日柏崎市で行われた新潟県消防大会において、三島町消防団長青柳元一氏が三十余年の永きにわたり消防団員として団員の指揮、指導はもとより、地域住民の防火意識の向上に精励されたことに対して、県知事より功績表彰が授与されました。
 また、副専任部長中川良一氏には功績表彰が授与されました。
 大会での受賞者を代表して、青柳団長が県知事に謝辞を述べました。



みしまっ子
カヌーに挑む

水に親しみ、未知への挑戦心を育もうと、八月二六日から行われたジュニアリーダー研修で、参加児童がカヌーに挑みました。
 全く経験のないカヌーですが、好奇心旺盛な子供たちのこと、和やかな中にも真剣にパドルを操っていました。
 ジュニアリーダー研修は、野外活動を通して、子供たちに自主性や協調性、社会性を身に付けてもらおうと毎年夏休みに中に行われるもので、今年も町内の小学四・五年生三十一名が参加。カヌーのほか、ウォークラリーや野外炊飯、キャンプファイヤーなどを体験し、子供たちにとっては、夏休みの良い思い出となったようです。

町民ウォークラリー

10月10日(木) 町体育館

友だちどうし 町を歩こう!

あなたの作品 待っています

10月12-13日 町体育館

芸術美術祭

町民ソフトボール大会

10月13日(日) スポーツ広場・三中

中学生以上 女性3名を入れて

※詳細については、役場教育委員会まで。

生涯学習社会への転換期におもむく
 三島中学校長 田村 昭
 「少にして学べば 壮にして為すなり 壮にして学べば 老いて衰えず 老いて学べば 死して朽ちず」
 これは、幕末の思想家であり、教育者でもあった佐藤一斎の「言志晩録」の中の一節です。
 さて、我が国の文部省は、昭和六三年七月一日を期して新しく生涯学習局を筆頭局として発足させるなど、一大機構改革を進め今日に至っています。その背景には、我が国の教育が今まで、いわゆる追いつき型近代化の過程で、学校中心の考え方に偏り、その結果、偏差値偏重や受験競争が激化するともに教育の荒廃もまた目撃され、学歴社会の弊害も大きく指摘されるに至ったことです。
 一方、大人社会に目を転じると、所得水準の向上、自由時間の増大、高齢化、高齢化など、まさに成熟社会への移行が顕著であり、人々の意識は、物の豊かさよりも心の豊かさを明確にしてきており、生涯の楽しみや生きがいを求める学習への意識が、一段と高まってきていることも事実です。
 即ち、かけがえのない人生、一人一人がその関心や能力に応じ、自発的に自分に適した内容や手段・方法を自由に選んで、生涯にわたって続ける学習が大切にされる、いや大切にされなければならぬ時代だからです。
 加えて、科学技術の進歩、産業構造の変化等は、既存の知識や技術を急速に陳腐化し、新しい知識・技術の習得のための学習需要を増大させています。その上、国際化や高度情報化への急速な進展です。
 これらのことを考えるに、人生の初期における学校教育のみでは、到底それに対応できなくなってきたことが

心の窓

現実にあふれています。我が国は、学校教育中心の考え方を改め、人生八〇年型の生涯学習体系への早急な転換が強く求められています。
 三島町では、今春、いきいきうるおいよるこび みしま、をキャッチフレーズとした内容の濃い第三次総合計画を、スタートさせたことは心強い限りです。
 今や国・県・市町村の緊急にして重要な課題の一つに「活力ある社会を築くための生涯学習の総合推進」があります。
 その中味は「生涯学習推進体制の整備であり、その中心機関の設置」です。前者は、従来の社会教育という範囲から脱皮した再編成と、その推進体制づくりです。後者については、一〇月にオープンされる「みしま交流センター」や、平成四年度を期して建設が予定されている「農村環境改善センター」が、既存の町公民館にとって変わるものとして脚光を浴びようとしています。このことは、二世紀を見定め、教育立町の名にふさわしいものと考えます。全町民の教育・文化センター、そして今日の課題でもある生涯学習の中心的役割を担う施設となることを期待したいものです。
 そのためには、町民各世代のニーズ(昭和三十三年度調査・平三商工会地域ビジョン作成事業報告書等)や、先進地視察などに照らした発想こそ大切にしなければと考えるものです。
 図書館機能はいうまでもなく、利用者の利便を最優先とした複合施設は、時代の要求でもありましよう。当然のことながら、来年にオープンする新県立図書館(情報図書館)とのオンラインネットワーク化は、今後の重要課題といえましよう。
 ともあれ、竣工が待たれる「農村環境改善センター」が、町民のだれにも広く愛され、かつ親しまれるように、そのネーミングについては、公募などによる工夫を強く提案します。

みしま交流センターご案内

旧庁舎跡地に建設を進めてきました“みしま交流センター”が10月23日にオープンします。
 仲間づくりの場、生涯学習の場として、みなさまのご利用をお待ちしております。



みしま交流センターとは

- 1 いろいろなグループ活動をするときの施設、場所としてご利用するところです。
- 2 いろいろな講習会、研修会を開催し地域文化の向上と活性化を図るところです。
- 3 趣味、教養、レクリエーションなどいろいろな活動をするところです。
- 4 土曜、日曜も午前9時から午後10時まで開館しておりますので、週末を気軽にご利用できます。

みしま交流センター施設の概要

- 1 階 イ) 200名収容できるステージ付きイベントホール
 - 2 階 イ) 32畳の教養文化室
ロ) 68畳の研修室
尚仕切りをとると100畳の大広間になります。
ハ) 小人数用会議室
- その他 1、2階とも憩いの場として、談話コーナーが設けてあります。

みしま交流センターのご利用

- 1 使用申請書に記入、みしま交流センターにお申し込み下さい。
- 2 ご利用の予約は、ご利用の3日前までにお申し込み下さい。
- 3 ご利用時間は午前9時から午後10時までで、休館は原則として月曜日です。
- 4 使用料

(1時間当たり)

	基本使用料		冷暖房機器	
	被保険者等	勤労者等	その他	使用料
ホール	200円	500円	2,500円	200円
教養文化室	100円	300円	1,500円	100円
研修室	100円	300円	1,500円	100円
会議室	100円	300円	1,500円	100円

ただし勤労者や地域の方々が研修・福祉のためにご利用される場合は無料です。
 5 TEL 42-2223
 FAX 42-2223
 尚みしま交流センターでは10月11日から受付ますが、それまでは役場の産業課まで申込み下さい。

木の良さ発見

暮らしの中で、音は、きわめて重要な生活要素の一つで、今聞える虫の声のように心地良く耳にやさしい音は、心をなごませてくれます。反対に隣の部屋での掃除機やファミコンの音などは騒音以外の何物でもありません。このような暮らしの中で発生する生活騒音を吸収し、イライラやストレスを解消してくれるのが「木」です。
 鉄やコンクリートの壁や天井は、音を大量に跳ね返すため残響時間が長く「グアーン」という音が耳に残ります。会議などで音が大きいのに聞きにくいというのはこのためです。
 それでは、木は吸音性抜群かというところ、グラフでもわかるように必ずしもそうではありません。

吸音率の比較(周波数500Hz)

かえって畳みなどの方がずっと優れています。ところが吸音性が良すぎると、これがまた聞きづらいもので、ステレオなどでわざと残響音を付けているのはそのためです。現代社会では、騒音が大きな問題となりますので、骨材はコンクリートのようなもので遮音し、内装は木材を使用するなど適材適所に木を使うと快適な居住空間を創造することが出来ます。
 木と音の関係は非常に複雑ですので、木の厚さや樹種などに工夫をして使いたいものです。
 資料提供 三島町木材組合

